

# 我が国周辺水域資源評価等推進委託事業

## 資源動向調査（ムロアジ類）

住友寿明・中西達也

資源動向調査のうち、ムロアジ類については和歌山県と共同で調査を実施し、本県は漁獲量調査及び魚体測定調査を行いデータを収集した。なお、本県で漁獲されるムロアジ類のほとんどがマルアジであり、マルアジを対象に調査を行った。

### 方法

#### 漁獲量調査

長期的な資源動向を把握するため、徳島県におけるムロアジ類の漁獲量を『漁業・養殖業生産統計年報』から求めた。徳島県でマルアジを漁獲する主な漁法は定置網であるため、紀伊水道及び太平洋（紀伊水道外域）の代表漁協における大型定置網及び小型定置網の漁獲量を調査した。

#### 生物測定調査

小型定置網で漁獲されたマルアジについて、サンプルを得られた月に限り尾叉長を測定し、漁獲物の尾叉長組成を把握した。

### 結果

#### 漁獲量調査

徳島県における昭和31年以降のムロアジ類の漁獲量を図1に示した。ムロアジの漁獲量は平成4年をピークに減少した。代表漁協における平成14年～平成27年の年別漁獲量を図2に示した。平成27年の漁獲量は、昨年の約半分の23トンだった。とくに、紀伊水道における漁獲量が非常に少なかった。平成27年と平年（平成14年～平成26年平均）の月別漁獲量を図3および4に示した。紀伊水道では、例年1～2月と9～12月にまとまった漁獲がみられたが、平成27年はこの時期の漁獲量が少なかった。太平洋では、10月以降低調に推移した。平成27年のCPUE（kg/日・隻）は、紀伊水道で昨年を大きく下回ったが、太平洋では前年を上回った（図5）。

#### 生物測定調査

紀伊水道では、8月に尾叉長18.5cm以上、9月は尾叉長14.0～14.5cmを主体とした小型魚、10月は尾叉長23.5cm以上の比較的大きいマルアジが漁獲された（図6）。太平洋では、3月に尾叉長18.0～23.0cm、11月に尾叉長14.0～17.5cmのマルアジが漁獲された（図7）。

### 考察

#### 資源状態

『漁業・養殖業生産統計年報』によるムロアジの漁獲量は平成26年に激減したが、原因のひとつとして紀伊水道外域で操業していた中型まき網が休業したことが影響したと考えられる。平成14年以降の標本漁協の漁獲量から判断すると、平成27年の資源水準は低位、資源動向は減少と見られる。しかしながら、平成14年以降の漁獲量は変動が大きく、来年以降横ばいまたは増加に転じる可能性もある。また、マルアジを漁獲する主な漁法は定置網であるため、他の漁法以上に海況の変化が漁獲量に与える影響が大きいと考えられる。

#### 資源管理の方法

定置網で漁獲される小型のマルアジは利用価値が低いいため安価で取り引きされている。このため、定置網に入網した小型魚の再放流が可能であると考えられる。

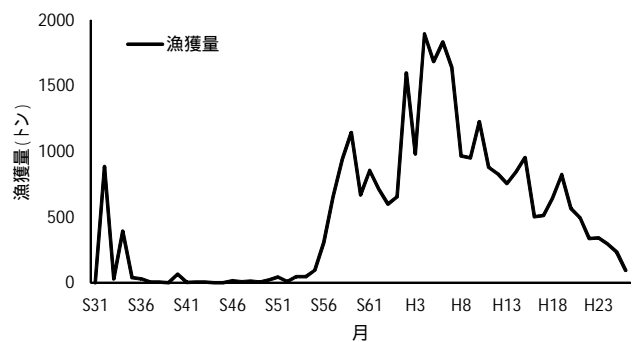


図1. 徳島県におけるムロアジ類の漁獲量

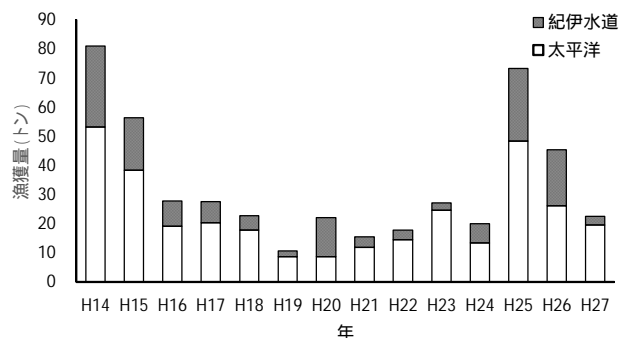


図2. 代表漁協におけるマルアジの年別漁獲量

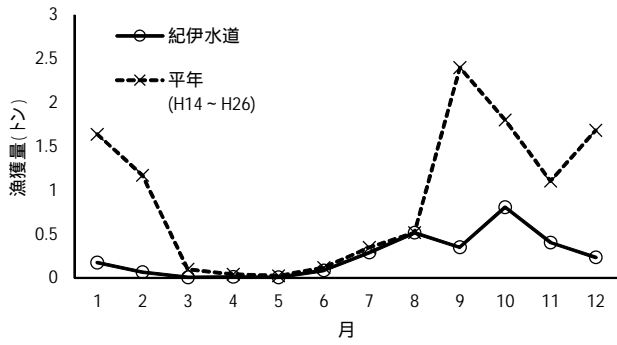


図3. 紀伊水道の代表漁協におけるマルアジの月別漁獲量

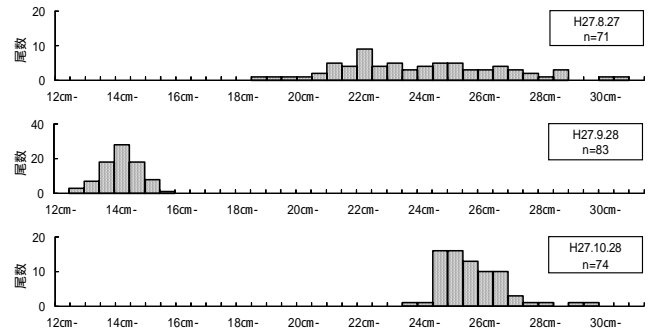


図6. 紀伊水道の代表漁協におけるマルアジの尾叉長組成

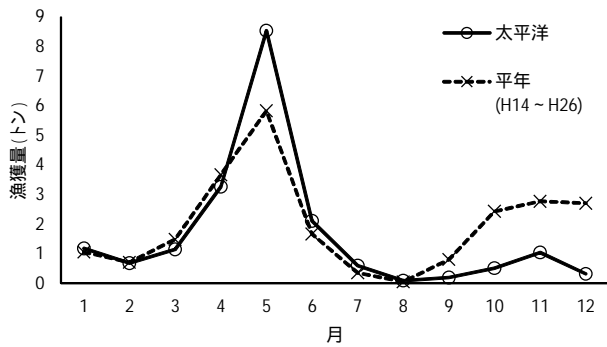


図4. 太平洋の代表漁協におけるマルアジの月別漁獲量

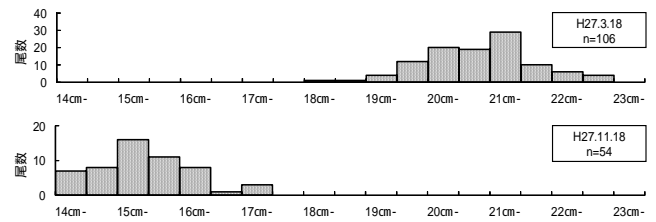


図7. 太平洋の代表漁協におけるマルアジの尾叉長組成

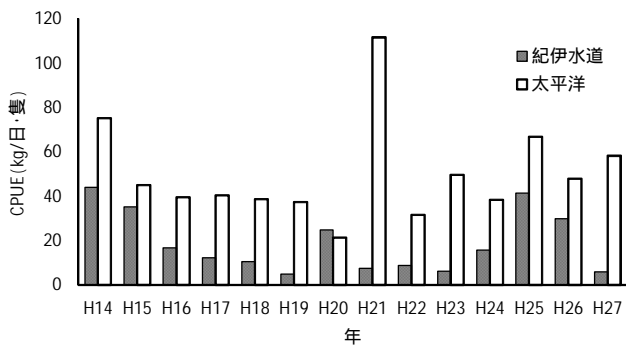


図5. 代表漁協におけるマルアジのCPUE (kg/日・隻)